

小学六年

国語

解答と解説

1

問一
i
オ
21
ii
イ
22
iii
ア
23
問二
①
ウ
24
⑧
ア
25

問三			
期	立	し	A
待	候	い	に
が	補	と	は
含	す	い	立
ま	る	う	候
れ	人	思	補
て	が	い	す
い	い	が	る
る	て	あ	人
。	ほ	る	が
	し	が	い
	い	、	な
	と	B	い
	い	に	で
	う	は	ほ

26  
27  
28  
29

問四
ウ
30
問五
作
戦
31
問六
エ
32
問七
エ
33
問八
イ
34
問九
ア
35

問十
責
任
か
ら
36

		<b>5</b>	<b>4</b>	<b>3</b>			<b>2</b>
⑥	①	①	①	①	問十	問六	問一
熟知	推測	オ	エ	ウ	そ	ウ	1
65	60	55	50	50	-----	44	37
⑦	②	②	②	②	れ	問七	ア
故郷	訓練	ウ	ア	ア	-----	45	2
66	61	56	51	51	-----	45	38
⑧	③	③	③	③	引	問八	オ
縮尺	功績	ア	イ	イ	-----	48	3
67	62	57	52	52	-----	48	39
⑨	④	④	④	④	問十一	49	ウ
染	演劇	エ	オ	オ	ウ	-----	40
68	63	58	53	53	-----	46	41
⑩	⑤	⑤	⑤	⑤	漢	問九	ウ
幼	燃焼	イ	ウ	ウ	-----	47	42
69	64	59	54	54	字	47	43
						工	問五

(配点)

{ ① (問一) 各2点、(問二) 各3点、(問三) 7点、他各5点 }  
 { ② (問一) 各2点、他各5点 }  
 { ③④⑤ 各2点 }

} 計150点

【解説】

1 吉野万理子の「時速47メートルの疾走」（講談社）から出題しました。

学級委員である「俺（伊集院）」は、ひそかに体育祭の応援団長になろうと考えています。うまく行かなかった時のことも考えて作戦を実行した「俺」でしたが、結局応援団長になることはできませんでした。やりたい気持ちを素直に出せない自分にもどかしさを感じる「俺」の様子を読み取りましょう。

問一 A2 関係つけ 知識

i 直前の「実況やら」、直後の「忙しい」と合わせて考えると、やることがたくさんあって大変だという「俺」の主張が読み取れます。このことから、「いろいろ」が入ります。

ii 町平が応援団長に決まり、残りの時間が自習となったことでクラスのメンバーは思い思いに好きな話題で会話を始めています。いきなりにぎやかになる様子をあらわしていることから「がやがや」が入ります。

iii この場面では外に出て行ったみんなに対して「俺」だけが一人教室に残っています。自分がやるうと思っていることに対していつでも思いきれず実行に移せない自分にもどかしさを感じている「俺」は、ここでも「誰か軽く指でつついてくれないだろうか」と他の人の後押しを期待しています。そういう意味で孤独感を覚える「俺」にとつて、強く吹く風が立っている窓の音はいつそう大きく聞こえています。以上のことから「がたがた」が入ります。

問二 A2 関係つけ 知識

①「綿密に」とは、「細かい部分まで注意が行き届いている様子」のことです。「綿密に指示を与える」「綿密にスケジュールを立てる」などのように使われます。

⑧「神妙に」とは、「平常とちがって大人しくかしこまっている様子」という意味の言葉です。「いつもよくしゃべる兄が、神妙な顔で父の話を聞いている」などのように使われます。

問三 B2 推論 分類

直前で描かれた教室の様子から、自分から応援団長になりたがっている人物は「俺」以外にいないことが分かります。つまり教室内の他のみんなは応援団長にはなりたくないのです。応援団長になりたいと思っているので、Aすなわち「俺」だけの考えとして「立候補する人が出ないのが望ましい」という気持ちが読みとれ、Bすなわち「みんな」は他の人に立候補してほしいという願望を読み取ることができます。AとBの違いを的確に説明するように心がけましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問四 B1 理由 比較

「固まってしまった」という行動は「思いもよらない結果が出たとつさに反応ができなかった」時にあらわれるものです。ここでは、綿密に考えてきた「負け続けて応援団長になる」という作戦がかなり早い段階で失敗しています。したがって、「俺」

は「えっ、もう失敗してしまったのか」と感じて「固まって」いるのです。

問五 B1 関係つけ

⑤の前の文に「続きがある」と書かれていることに注目しましょう。これは「自分が応援団長になるためには、まだ他の方法が残っている」という意味です。「もっともリアル」「実理性の高い」などのつながりも考えて、「作戦」が入ります。

問六 B1 理由 比較

線⑥は誰かが応援団長に決定した時点を「俺」が想像している場面です。この時点で「クラスのやつら」は自分が応援団長になるかもしれないというおそれから解放され、応援団長に決定した人物についてあれこれ語っていると考えられます。したがって、エが正解となります。ア「興味がうすくなった」、イ「女子が応援団長になったら面白いのではないか」、ウ「結局伊集院が代わりに応援団長になるのだろう」がそれぞれ誤っています。

問七 B1 理由 比較

「表情が冴えない」とは、悲しみやつらさを感じて表情に元気がない様子を表す言葉です。「返って来たテストの結果を見る弟の表情が冴えない」のように使われます。美鈴はまだ自分が応援団長になってしまう可能性が残っているため、本当にそうになったらどうしようと考えて「冴えない」表情をしているのです。したがって、エが正解となります。ア「気を抜けないで」、イ「失望している」、ウ「いらいらしている」がそれぞれ誤つ

ています。

問八 B1 関係つけ

体育祭当日、「俺」は放送部の後輩である丸道を助け、不快な言葉をかけられることもなく、みんなに「お疲れ！」と言ってもらえることができました。また、放送部の反省会では引退の言葉をみんなが神妙に聞いてくれました。さらに、クラスのことを考えても、体育祭自体はボロ負けだったものの全体的に悪くない一日だったと考えています。以上のことから、結果的に自分が応援団長にならなかったことを肯定的にとらえているイが正解となります。

問九 B1 理由 比較

線⑩直後に「なんだか水のなかで音を聞いているみたい」に、どこか濁っていて、遠かった」とあります。ここには、自分のやろうと思っていたことをやれなかった後悔が残り、参加はしたもののその後悔をずっと引きずって集中できずにいた「俺」の様子があらわれています。したがって、アが正解となります。イ「緑組が勝つことはできなかった」、ウ「心から楽しめなかった」、エ「まったく興味を持つてはいなかった」がそれぞれ誤っています。

問十 B1 理由 関係つけ

後輩の丸道から言われた——線⑪の言葉について、「俺」自身が考えている場面を探すと、iiの二行後に「下級生の言うとおりであった」が見つかります。この場面での丸道の言葉は、自分の思っていることをぶつけて全力で物事に当たるとい

う経験を避けてきた「俺」のことを的確に言い当てています。以上の内容と前後のつながりを合わせ、「責任から距離をおいて眺めている」が正解となります。

**2** 古井由吉「言葉について」(筑摩書房)から出題しました。

日本語がどのような変化を経てきた言語であるのか、またどのような長所と短所を持っているのかということについて、外国語との比較も交えながら考察している文章です。

問一 **A2** 関係つけ **知識**

接続語を選ぶ問題です。まずは前後の部分をおさえ、どの部分とどの部分がどういう関係でつながっているかを確認しましょう。

1 直前に書かれた「目でつかむ、耳でつかむ」を直後で分かりやすく言い換えています。前の内容をまとめ、言い換えた内容が後に来ていることから、ア「つまり」が入ります。

2 直前には「日本語は言葉と国籍が直結した、世界でもめずらしい言語である」という内容があり、直後には「日本人は外国語を話すことが下手なのではないかと言われてしまう」という内容が続いています。前の内容が後の内容の理由になっていることから、オ「だから」が入ります。

3 直前には、日本語をはじめとした日本独自の伝統が行き詰まりを解消できるかもしれないという内容が書かれています。これに対して直後では日本語が批判されている内容が書かれています。前後の内容が反対になっていることから、「ところが」が入ります。

問二 **B1** 具体・抽象 **比較**

この段落の前半では「会話において、文字のみで表される意味でなく、感情のトーンを含めてしっかりとつかむこと」が最近あまり行われていないことが述べられています。そのような会話が続けば、話している相手がどのようなことを考え、どのような気持ちでいるのかを考える機会が失われてしまいます。筆者の「危惧」はそのようなことに向けられていると考えられます。

問三 **B1** 具体・抽象 **比較**

指示語の内容を指摘する問題です。まずは指示語をふくむ一文を全体でとらえ、指示語より前から指示内容を適切に探すように心がけましょう。いきなり前を探していくのではなく、「想像以上に高度な作業」とは何かを意識して探すということが大切です。「認識」「観念」のように、それまで日本語にはなかったものに漢字をあてて訳して使う作業を指していますから、ウが正解となります。

問四 **B1** 関係つけ **比較**

漢字はもともと中国から日本に入ってきたものです。ところが、日本で外来語に漢字をあてたものが再び中国に伝わって使われるという逆転現象が起こっています。このように、文化や商品を外国に送り出した側が、送り出した先で加工された形のものを再度受け入れる様子を「逆輸入」と表現します。

問五 **B1** 関係つけ

文章全体を通じ、筆者は西洋と東洋の比較において東洋の文

化・文明の良さに注目していることが分かります。また、西洋の文化・文明について「行き詰まり」という表現を使っていることから、あまり高く評価していないことも読み取れます。

A 〽 D の前後を確認すると、良い評価を与えているのは D だけということが分かります。

問六

**B1** 理由 比較

筆者は「伝統」は言葉であり、文化や文明を作っていくうえで「足場」「基礎」と表現しています。自分たち独自の文化・文明を作り上げていくうえで、「伝統」がなければ外国から文化・文明を借りてきて模倣するしかない、というのが筆者の見解です。ア「自分の国の文明や技術が負けないため」、イ「問題を一気に片づけることのできる知恵」、エ「まるごと受け入れようとする」がそれぞれ誤っています。

問七

**B1** 関係づけ

筆者は日本語を「やわらかな言語」と表現していますが、その特徴を外国人の立場からとらえると、日本語に対する批判が出て来ることは容易に想像できます。特に意味をしつかり限定して相手に伝えようとしないところに外国人は不満を覚えるようです。その外国人と同じように日本語を批判できる日本人とはどのような人々かを考えましょう。日本人でありながら日本語の欠点に気づくためには、外国人と頻繁にやり取りをする必要があるでしょう。したがって、アが正解となります。

問八

**B1** 具体・抽象

説明した文の後半にある「危機への対応がほんの少し遅れて

しまう」という内容は、——線⑥直後に述べられています。前半に目を向けて空欄直後の「同時に扱っている」に注目し、同じ内容について述べている部分を本文から探すと、③の後に「かなと漢字という、まったく異なった姿のものを同時に使いこなしてきた」という表現が見つかります。

問九

**B1** 具体・抽象 比較

この段落の冒頭に「時代が移り変わり、ますます国際化が進むにつれて、言葉のあり方も変わってきている」と書かれていることに注目しましょう。国際化が進むということは、日本語だけでやり取りする場面ばかりではなくなることを意味しています。つまり、日本語の良さである意味を限定しない使い方が、相手から見ると良くない表現の仕方になる場合も出て来るということです。今後は、それら個別の状況にうまく対応しながら言葉を使い分けていくことが求められます。以上のことからエが正解となります。ア「自国の文化を守り」、イ「適度に表音化をおしすすめる」、ウ「言葉の表す意味を一つに限定する」がそれぞれ誤っています。

問十

**B1** 関係づけ

扱っている文をもとにもどす問題です。いきなり本文を読んで戻るところを探すのではなく、扱っている文そのものをじっくり読み、その前後にどのような内容があるはずかということについて情報を引き出ししておきましょう。「同じように」「二カ国語くらはは通用」という内容から、この文が戻る場所の直前に、二カ国語が通用する国の話が出てきていることが予想されます。——線①の五行後から、「バイリンガル」の話が出てきて

いる部分です。抜けている文はその後に入ると考えられます。

問十一 **B1** 具体・抽象 比較

本文の内容と合うものを選ぶ問題です。選択肢<sup>せたくし</sup>だけを読んで正誤を判断してしまいがちですが、必ず本文との対応を確認し、それぞれに書かれた内容を照らし合わせながら正誤を判断しましょう。ア「西洋の言葉を日本語に翻訳<sup>ほんやく</sup>する力が育ちにくい」、イ「会社で使う標準語を英語にすることは大きな意味がある」、エ「様々なことを想像して意味を広げていくことが得意」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は、——線⑥の七行後から始まる段落の内容と合っています。